



2014年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6693-9571)

「トラップマウス技術」に関する特許が米国にて成立

株式会社トランスジェニック(代表取締役社長：福永健司、熊本県熊本市)の基幹技術「可変型遺伝子トラップマウス技術(以下、本技術)」に関連する特許群のうち、トラップベクターを用いた可変型遺伝子トラップ法に関する特許が米国において成立したことをお知らせいたします(特許番号 US 8722408)。

このたび米国で成立した特許は、熊本大学生命資源研究・支援センター 教授 山村研一(当社技術統括担当取締役)らにより発明された、遺伝子組換え実験動物であるノックアウトマウスを高効率で作製でき、マウス遺伝子を破壊後に、興味のある遺伝子再導入することが可能なトラップベクターを用いた可変型遺伝子トラップ法に関する特許であります。本技術は、相同組換え法にも応用が可能なため、狙ったマウス遺伝子を破壊できるだけでなく、ヒト遺伝子を挿入し、ヒト疾患の病因・病態解析に極めて有用な「ヒト化マウス」を作製できる特徴を有します。なお、本技術に関する特許は、すでに米国で一部成立しているほか、日本、欧州、中国、香港、オーストラリアで成立しています。

今回の米国での特許成立により、トラップマウス技術に関わる当社の国内及び海外出願特許が、全て成立したことになります。

<トラップマウス技術に関連する特許群>

出願国	特許番号	状況
日本	JP4664554	2011年2月成立
米国	US7312075 US8722408 (今回成立)	2007年12月成立 2014年5月成立
欧州	EP1201759	2010年3月成立
中国	ZL00812904.5 ZL200510084464.6	2010年6月成立 2013年4月成立
香港	HK1048830B	2010年12月成立
オーストラリア	AU778719	2005年4月成立

当社は、本技術を用いて大規模・網羅的に遺伝子破壊マウスを作製し、これらのリソースを「TG Resource Bank®」としてウェブ上で公開し、創薬ターゲット遺伝子探索、遺伝子の機能解析などを目的とする研究に継続的に使用していただくために、国内外の製薬企業・研究機関などに対して系統毎に使用権を許諾するライセンスビジネスを展開しております。また、このプロジェクトで培った技術力は、当社ジェノミクス事業の柱である遺伝子改変マウス作製サービスのプラットフォームとなり、高い信頼を得ています。

なお、本件の本年度連結業績への影響は軽微であり、業績予想には変更がありません。

◆ご参考

: 可変型遺伝子トラップ法

熊本大学生命資源研究・支援センター 教授 山村研一（当社技術統括担当取締役）らにより発明された、遺伝子改変マウスの効率的な作製方法であり、トラップベクターによりマウスES細胞に発現する遺伝子をランダムに完全破壊する方法です。従来のトラップ法に比べて、遺伝子の完全破壊が行えること、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や突然変異などを挿入可能であることが特徴であり、ヒト疾患モデル動物の開発や詳細な遺伝子機能解析に有用な手法です。

: TG Resource Bank®

当社が保有する可変型遺伝子トラップ法を用いて作製した遺伝子破壊マウス約 700 系統・遺伝子破壊ES細胞約 2000 クローンのライブラリーです。

<http://www.transgenic.co.jp/products/mice/index.html>

以上